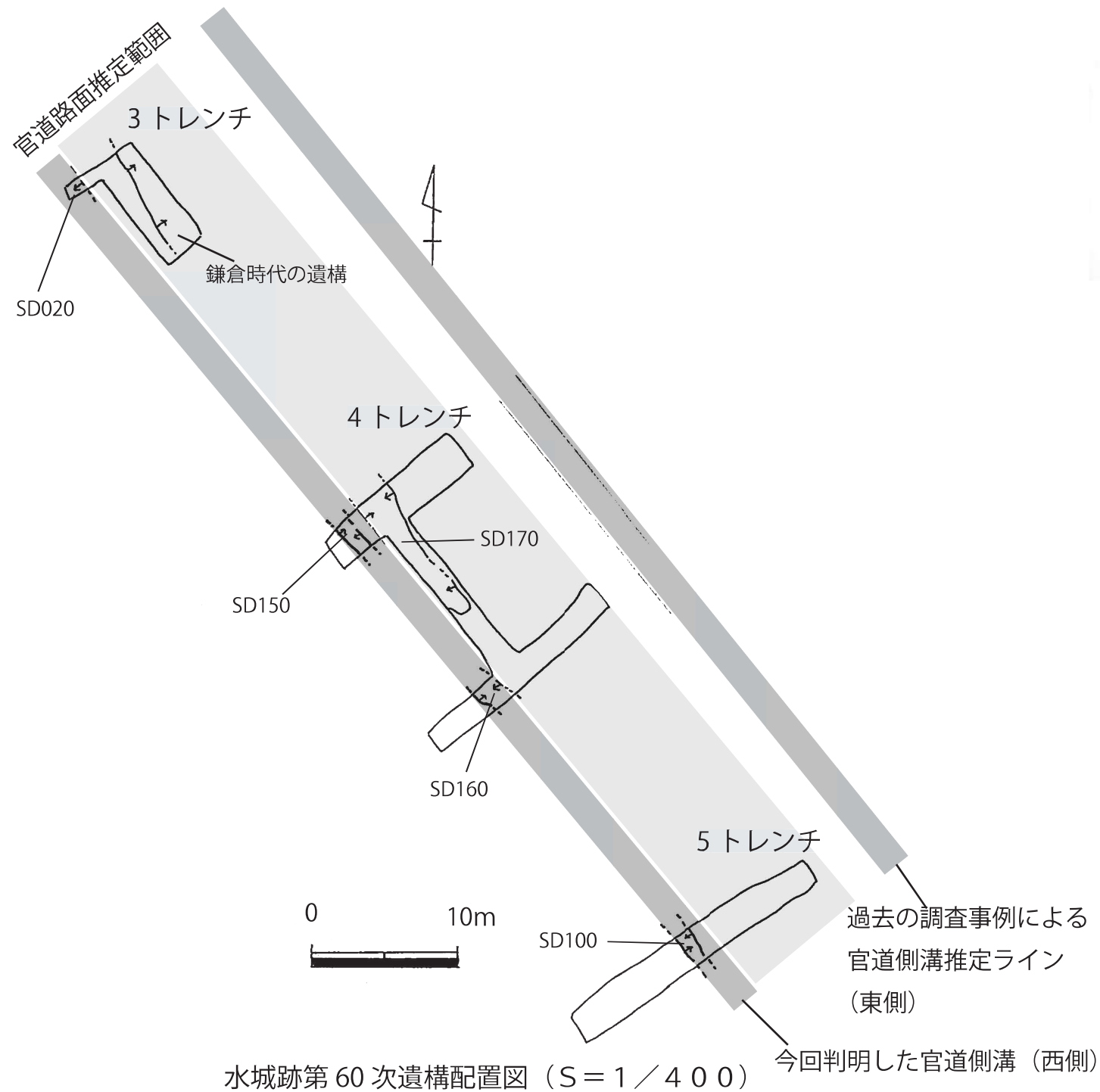


# 特別史跡水城跡 第60次調査 現場説明会資料

平成28年1月30日(土)  
10時20分～  
太宰府市教育委員会文化財課  
調査地：太宰府市国分2丁目



## 水城と東門について

水城は、福岡平野の一番奥まった太宰府の前面に位置し、東の四王寺山と西の牛頸丘陵から派生する丘陵を結ぶ、全長1.2km、高さ10m、前面(博多側)に濠を持つ巨大な建造物です。日本書紀によれば、天智3(664)年に水城を築造したことが記されています。

水城には東と西にそれぞれ門があり、その門を通る官道といわれる国家が管理した直線的な道がありました。西門は大宰府と鴻臚館(外交および海外交易の施設)を結んでいるため外国使節が往来したと考えられています。東門は大宰府から博多方面に向かったのちに山陽道に連絡します。近世になると各地から太宰府天満宮に詣るさいふ詣りや、日田街道として使われ、現在でも博多と太宰府を繋ぐ主要な道路であるなど、長い交通の歴史があります。

長く交通の要衝であったためか、東門自体は現存していません。道路拡張等による大規模な造成がなされたことで土地の利用の姿も変わっており、建っていた場所は不明になっています。

現地には東門の礎石と伝わる門礎があり、江戸時代以来、太宰府の名所の1つとなっていました。



## 調査の目的

水城跡整備事業にともなう発掘調査をH26年度に引き続いて行いました。  
調査の目的は、水城跡東門の特定、官道と水城下成土塁との関係、官道の位置確認です。  
3箇所にてトレンチを設定しました。

## 調査の概要

- 3 トレンチ 官道側溝 (SD020) …奈良～平安時代。溝の東側肩を確認。  
井戸、溝、整地…鎌倉時代。小穴、たまり…近世後期～近現代。
- 4 トレンチ 官道側溝 (SD150・160) …奈良～平安時代。  
溝 (SD170) …砂層堆積。奈良時代。小穴、たまり…近世後期～近現代。
- 5 トレンチ 官道側溝 (SD100) …奈良時代～。小穴、たまり…近世後期～近現代。

官道側溝からの出土遺物は、土師器や須恵器等の土器は少なく、主に瓦が出土しています。  
瓦の出土傾向としては、縄目叩きの瓦が多く、わずかに格子目叩きの瓦が出ています。これら瓦の年代観より溝の埋没時期は平安時代まで下と考えられます。

## 調査の成果と課題

### ○水城跡東門の特定

→ 昨年の水城跡 59 次の調査成果によって、祠の北側と、2 トレンチ南東部のすこし標高が高くなっているところの 2 箇所にて門が存在した可能性が提示されました。今年度、2 トレンチの南東部を 3 トレンチとして掘ると門に関する遺構は確認できませんでした。よって、現状では水城東門は現在の祠の先付近に存在にしている可能性が高いと考えられます。

### ○官道と水城下成土塁との関係

→ 4 トレンチにて下成土塁の検出が期待されましたが、近世後期～近現代の削平により、対象地内での下成土塁の痕跡は確認できませんでした。

### ○官道の位置確認

→ 東門から内側の太宰府側での官道の調査事例は少なかったのですが、今回の調査により、3.4.5 トレンチと連続して、官道の側溝が 70m の長さに渡って確認されたことは大きな成果です。  
溝の幅は 1.2 ～ 1.5m、深さは 0.1m 程度です。溝が浅いのは、近世後期～近現代に行われた家の建て替え等による土地造成により削られたためと考えられます。

## 水城跡第 60 次現場の位置



現場と官道の関係図 (まると太宰府歴史展図録より転載)



官道側溝から出土した瓦類

水城跡東門エリア整備イメージ図